

## 能登地域の人口動態と活性化対策の課題

### Activation and Population Movement of Depopulated Noto Area

○高橋 強\*、村島和男\*、坂田寧代\*

Tsuyoshi TAKAHASHI, Kazuo MURASHIMA and Yasuyo SAKATA

#### (1) 研究目的

わが国の農村地域は少子高齢化の進行が著しく、担い手不足が深刻化しているが、なかでも能登半島地域では若年層の転出（社会移動）により、農業経営のみならず、地域管理・環境管理が不十分となり、森林の荒廃、農地の耕作放棄など深刻な問題を引き起こしている。多くの多面的機能を有する本地域の荒廃に歯止めをかけ、自然環境を維持しながら活性化を図っていくためには人口の定住を進めることが不可欠である。

そこで定住対策を検討するための参考資料とするために、石川県能登半島地域の市町村を対象として人口動態、とくに社会移動の特徴を分析するとともに、地域活性化に向けての現状と課題を明らかにすることを目的とする。

#### (2) 研究計画・方法

石川県内の市町村を単位として人口移動の実態を解明する。とくに転出入の社会移動の要因を明らかにするため、国勢調査結果を利用して5歳階級別人口動態のコーホートを比較することにより年齢別社会移動の動向とその地理的分布を明らかにする。その上で、人口移動の著しい珠洲市と能登町の全集落の区長を対象として、地域活性化の現状と課題について平成17年12月にアンケート調査を行った。

#### (3) 人口動態の概要

県内の代表的な地域について5歳階級別の純移動率の一例を示すと図-1のとおりで、県全体では年齢層別の純移動率の変化は少ないが、金沢市近郊の野々市町と能登の市町村とでは大きな違いが見られる。すなわち野々市町には多くの大学、企業が立地しており、かつ金沢市のベッドタウンとしての位置づけから、15～19歳、20～24歳層では入学、就職等により多くの転入がみられ、25～29歳、30～34歳層では卒業、就職等により他市町に転出して行くというパターンが伺われる。それに対して能登では地域内に有力な進学・就職先が少ないために15～19歳、20～24歳層では中学・高校を卒業すると金沢市とその近郊、あるいは県外大都市圏等に転出し、30～34歳層ではそれらの一部が就職・結婚等によりUターンするものの、これらの転出の穴埋めにはとうてい及ばず、これが能登地域の人口減少の実態であるといえる。

そこで、各市町村について、人口移動の大きい卒業、入学、就職、結婚等の時期に相当する15～29歳の年齢層（以下、青年層と呼ぶ）の純移動率と、社会移動が落ち着いたと考えられる30～59歳の年齢層（以下、壮年層）の純移動率を計算し、相互の関係を図示すると図-2となる。加賀と中能登、奥能登の市町村では壮年層の純移動率には大差がないが、青年層の純移動率には大きな差が

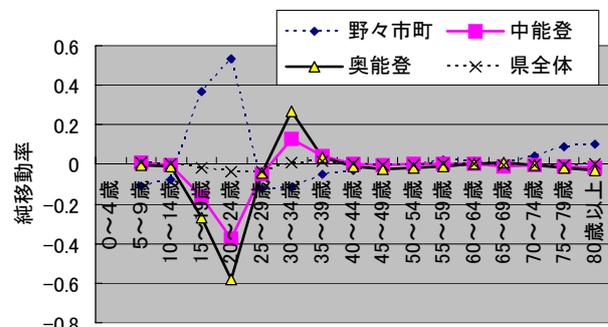


図-1 純移動率の地域別比較  
Net Migration rate of Each Generation

\*石川県立大学 Ishikawa Prefectural University,

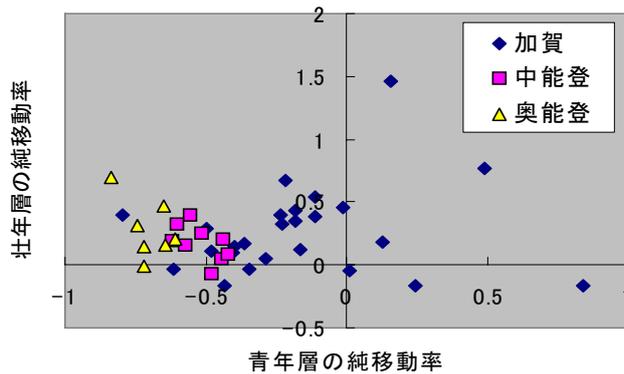


図-2 青年層と壮年層の純移動率  
Net Migration rate of Noto Area

みられ、中能登、奥能登と地理的条件が不利な地域ほど青年層の純移動率が小さな値を示している。

青年層の純移動率の地理的分布を図-3に示す。金沢市とその近郊では青年層の純移動率がプラス(転入)で、野々市町では0.8以上となっているのに対して、奥能登の市町村では純移動率が-0.5未満で、-0.7未満の町村も見られ、奥能登ではこの年齢層の転出がいかに多いかがわかる。このことは高齢化率の上昇につながり、2000年時点で奥能登の市町村のほとんどは30%以上の高齢化率を示し、2015年時点では40%以上となることが予測された。

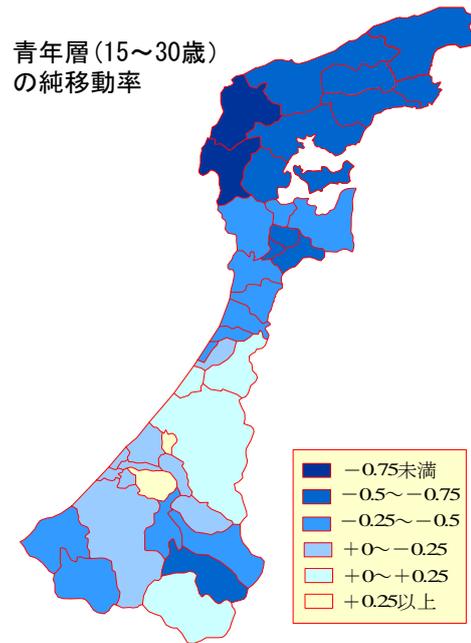


図-3 青年層の純移動率の分布  
Net Migration rate of Young Generation

#### (4) アンケート調査結果の概要

図-4、図-5はアンケート結果の一部である。「緑が多く自然に恵まれている」と評価する一方で、山間地では「市街地から遠く生活に不便」、「耕作放棄された農地が見苦しい」との認識もあり、若者の定住を図るための「企業や住宅の誘致」を求める声が圧倒的に多い。しかしながら前述したように、本地域の少子・高齢化の進行は構造的であると考えられることから、こうした動向を踏まえた上で本地区の豊かな自然と地域資源を活かして、空き家、廃校跡の活用やシルバー世代受け入れ等の可能性を探っていくことが必要であると思われる。

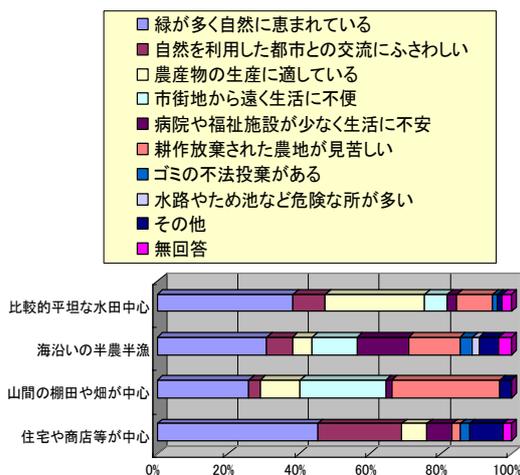


図-4 現在の環境に対する認識  
Impression of Present Environment

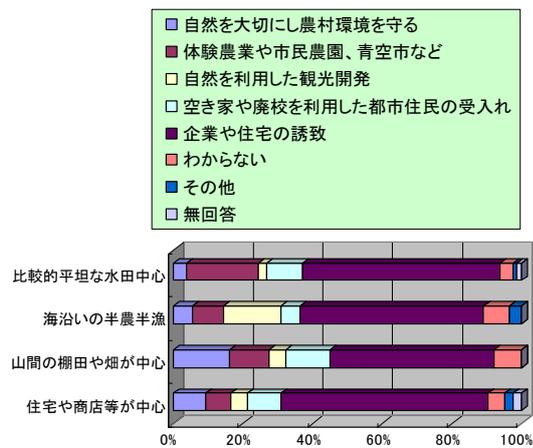


図-5 望ましい活性化の方向  
Desirable Way of Activation